

ことであるのにこのお二人に題字を書いていただき、「賜天覧」ということを本に載せて出していたのですが、こういう本はその当時、最高の本でした。

本の題字をお願いしたとき、清浦伯爵は「廣業」と書いておられたのですが、奈良大将は何と書いたらいいかとってお尋ねになったのです。そして「文化の先駆」と書いたかどうかといわれたのですが、それを伺ってびっくりしたのです。私は著書のはしがきの中に文明の先駆と書いていますと申し上げると「それでは文明の先駆と書こう」といわれてそう書いていただいたのでした。（編者注 六十七頁参照）

奈良大将は天皇陛下が皇太子殿下でおありのとき英国に行かれたのですが、そのときはお伴して行かれ、十一年間も侍従武官長をされたほどレコード破りの侍従武官長をされ、後で男爵にもなられたほどの立派なお方でしたが、そういう奈良大将が速記は文化の後から行くものではなく、文化の先駆であるとお思いになり、私の考えと同じであったことは非常に驚き、喜んだのでした。ご着眼のすぐれておられることに感銘を深うしたものでした。

その後奈良大将には、京都で兄と二人で建てている両洋中学にお出でいただいたことがありますし、また両洋中学の後援会の発起人になっていただいたのでした。両洋中学後援会の発起人には清浦伯爵、奈良大将、京都府知事、京都市長、京都商工会議所会頭になっていただいたのでした。

それから奈良大将は栃木県のご出身であったので、宇都宮の市長さんをご紹介いただいたことがあ